

食いしん防災コミュニティ部会がいく！

(第34回 2021年3月)



先月末に配布された湖東まち協広報紙「好きやねん湖東」を読んで喝采した人は偉い。そうです。当コーナーの兄貴分「食いしん防災隊がいく！」が、なんと1年数か月ぶりに連載復活したのです！ 全世界を震撼させた大事件、まだ読んでない人はぜひ！……と胸を張るほどたいしたもんじゃありません。HP 版の方が本音爆発だからね。まあヒマがあったらあっちも目を通してやってください。1分足らずで読めちゃうから。

ちなみに食いしん防は、FM ラジオ版「好きやねん！湖東」にも出演したことがあります。どの回だったかはナイショ。正体がバレるといけないからね。これからもいつ出るかわからないので、毎月第4月曜午後1時30分は、ぜひFM 東近江 81.5MHz にチューニングしてちょ！

では広報紙版の再開を祝して、今回はちょっとマジメな話題で攻めてみることにしようか。防災にも関係ないことはないこともない話なんで、そこんところヨロピク！



さて、食いしん防はなぜか昔から「安全装置」というシステムに興味があった。たとえば自動で開くドアがあるとする。しかしそれが故障して作動しなくなった時、手で開けられる機構を組みこんでおく。これが安全装置だ。

実際に身の回りにあるモノを見ていくと、そのほとんどに組みこまれているのがわかる。モノだけでなく、計画にも同様の措置がある。「予備計画」とか「B プラン」と呼ばれるものだ。たとえば、運動会を●日に行うが、雨が降った時のために予備日を設けておく、あるいは体育館も押さえておく、といったことだ。

この「本来のシステムが狙い通りいかなかった場合の準備をしておく」という概念が、日本人にはやや薄いのではないかと……と食いしん防は疑っている。例を挙げてみよう。

原発は常に冷却しておかないとメルトダウンする。もし停電すると冷却できなくなるので、自家発電機を備えている。しかし津波などで発電機がやられた場合は……カバーするものが何もなかった。(実際は、バッテリーをつなぐ・消防車で注水する等が検討されたが、準備不足で実行できなかった)

何年前かに、東京証券取引所のメインコンピュータがシステムダウンするトラブルがあった。そういう時はサブコンピュータに切り替わるはずなのにそれができず、復旧まで数日に渡って株取引がストップする大惨事となった。聞くところによると、システム切り替えの訓練を1度もしていなかったという。

他にも、日本の歴史を見ていると、予備プランがなかった(あるいはそれに切り替える判断ができなかった)ためにとんでもないことになった事例が枚挙に暇ない。太平洋



戦争はそれで敗けたといってもよいくらいだ。



食いしん防も、自治会で運動会の幹事をした時に、予備プランに切り替える判断の難しさを体験した。前日の天気予報は雨。こりゃ体育館で間違いなしだなと思い、準備もそちらでした。ところが朝の6時前に雨は上がり、予報も曇りに変わっているではないか。そこでグラウンドを見るとぐちょぐちょの状態だったので、屋内でやると決断し、ページング放送で皆に伝えた。

それなのに……開会時には空が晴れ渡り、体育館に集まった住民からは「外でできたじゃないか!」と、散々に文句を言われた。うえ〜ん、気象庁の嘘つきいいいい。

変えて文句を言われるくらいなら、元のプランを押し通し、不具合があったら「想定外の事態だった」と開き直る方がマシ……そんなメンタリティが、日本の社会には働いている気がする。

今年の東京オリンピックをどのようなかたちで開催するかについても、委員会の偉いさんは「B プランはない」と言い切っていた。おそらく実際は、複数の選択肢が用意されているのだろう。しかし「縁起でもない」ことを口にしてはいけない、という「言霊信仰」(結婚式で「別れる」「切れる」などの言葉を使っちゃダメってやつ)が口をつくませているのではなかろうか。

防災・減災への取り組みも、一種の「安全装置」に相当する。そして事前の備えには、「B プラン」も必要になってくる。「想定外」は言い訳にできないのだ。史上最大の作戦と言われる「コロナのワクチン接種」でも、政府はきちんと複数のサブプランを用意し、臨機応変に切り替えてもらえると期待している。

どうです。食いしん防もたまにはマジメっぽいことを考えてるでしょ?



TOPICS

☆食いしん防災部会で HUG をやってみた

前号でお伝えした通り、今年になって食いしん防災部会で HUG (避難所運営ゲーム) を購入した。さっそく部会員で集まって試してみた。

震度6強の大地震発生4時間後という設定でスタート。プレイヤーは小学校に開設された避難所を運営する本部役員となって、次々と襲いかかってくる事態に対応することを求められる。



いやもう大変でした。押し寄せる避難者の受付場所をどこに設置するかから始まって、その後も難題続出。食いしん防たちはウンウンうなりながら対処していました。でも、このゲームで出題された状況って、すべて現実の災害で起きたことばかりなんですよね。つまり実際に起こり得る事態ってこと。

初体験した食いしん防たちの感想は、「うわあ、これは良い体験になる」「実際の現場とは違って来るかもしれないけど、これをやるとくのとやってないのとでは、大きな差が出てくるよね」「避難所のことについて考えるきっかけになる」といったものでした。

今後はこと防の研修や出前講座でも活用していこう、という結論になりました。

☆「防災・減災のつどい」に出席

東近江市が主催する令和2年度「防災・減災のつどい」が八日市文化芸術会館で開催され、食いしん防も参加してきました。

市辺地区減災プロジェクトの事例発表（地区内の全自治会が同じ日に訓練をするという壮大なプラン！）や、県の内外で防災活動に取り組むローカリズム・ラボの井岡仁志さんの「防災と福祉のまちづくり」と題した講演を聴きました。

「少子高齢化が進み、20年後には東近江市の約3分の1が独居高齢者の世帯になる。そんな現実を踏まえて、どのような防災減災活動をしていけばいいのか？」という問いかけは、とても興味深いものでした。食いしん防は身を乗り出して、その答えに耳を傾けようとしたのだが……

ああ、なんということでしょう。途中で食いしん防は寝落ちしてしまったのです。よってその肝心なところがわからずじまい。

こ、このままではいかん。幸いにも会場で知り合いを見かけたので、その人に教えてもらうことにしたい。その結果はあらためて報告します。括目して待たれよ！



今後の活動予定

3月6日 東近江市防災リーダー養成講座・特別編（市役所本庁）

4月8日 「いこいこ広場」で防災カードゲーム大会開催

※ 出前講座の申し込み受け付けます！



勝手にQ&Aコーナー

Q：広報誌の連載が中断していた理由はなんとなく想像がつきますが、なぜ再開できたのかわかりません。賄賂を使うか脅迫でもしたのですか？

A：あなたは食いしん防のことを誤解しています。どうせ「くだらない内容だから干されていた」とでも想像していたんでしょうが、そしてその想像はあながち外れてもいないんですが、ええいそんなことはどうでもよろしい。再開したのはファンの熱烈な働きかけがあったから……だと思いたい。



Q：研修の席で寝落ちするとは、**気が緩んでる**んじゃないですか？

A：ううっ、そこを攻めてくるか。えーと、そのですね、決して**気が緩んでる**わけじゃないのですよ。「防災・減災のつどい」は平日の夜にありましてですね、**昼間の激務に疲れ果てていた**ため、つい……ムニャムニャ

楽しい質問、お待ちしております！

(文責：こじまっちょ)

